



全日畜だより

第 55 号

令和5年2月 10 日

<https://www.alpa.or.jp/>

J R A 畜産振興事業の進捗状況について

- ・ 農畜連携による畜産経営の強化調査事業
- ・ 多角化による畜産経営強化調査事業

◎ 上記のJRA畜産振興事業を令和4年度に実施しています。

これらの事業の実施に当たっては、関係飼料メーカー担当者、関係各県の配合飼料価格安定基金協会及び各地方全日畜の協力を得て実施しているところです。

農畜連携による畜産経営の強化調査事業

◎ ワークショップ鹿児島会場を開催

日時: 令和4年7月5日 13:00~16:00 場所: 鹿児島県鹿児島市

地元鹿児島県をはじめ九州各県を中心に各地から、畜産・農業経営者、飼料メーカー、行政関係者、工業会、県基金協会等団体関係者、報道関係者など合わせて約100名の参加がありました。

詳細は全日畜だより52号及び全日畜ホームページ内の速報をご覧ください。

【 URL: <https://alpa.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/08/Newsletter052.pdf> 】

◎ ワークショップ帯広会場を開催

日時: 令和4年11月14日 13:00~16:00 場所: 北海道帯広市

北口牧場、日本甜菜製糖(株)、(有)ワタミファーム美幌峠牧場、(株)エース・クリーン、雪印種苗(株)、土幌町農協、(有)大木牧場からの7名の発表者を含め総勢33名が参加されました。

発表者からは、小麦生産者と肉用牛繁殖経営の連携、甜菜工場を仲立ちとした甜菜生産者と酪農との連携、木質飼料利用、バイオマス



ガス利用とその消化液を介した地域畑作農家との連携等が報告されました。

(このワークショップの詳細は、近々速報として当協会ホームページに掲載します。)

◎ 全日畜シンポジウム「地域資源を活用した農畜連携」を開催

日時: 令和4年12月8日 場所: 千葉県千葉市

(一社)全日基の引地和明常務理事をモデレーターに、第1部で、まず全日畜専門員の神谷康雄氏が「全日畜の実態調査からみた農畜連携の取組状況と課題」を、千葉県農業会議専門員の高岡晃氏

が「『香取市耕畜連携農業推進協議会』の活動について」を、ファームサポート香取酪農代表取締役の長嶋透氏が「地域資源の稲 WCS を有効活用する体制づくり」を、(株)秋川牧園生産部次長の村田洋氏が「連系の秘訣は農業側と畜産側がウィンウィンであること」を、(有)金子ファーム取締役会長の金子春雄氏が「稲作農家と畜産生産者で『もみ殻』の有効活用にチャレンジ」を、元農研機構農村工学研究所技術移転センター教授の石田憲治氏が「耕畜連携から農畜連携へ（強靱な持続的畜産経営に向けて）」と題してそれぞれ講演されました。



第2部ではこれらの講演を基に質疑応答がなされました。
なお、当日資料と発表動画を全日畜 HP 上に公開中です。

【 URL: https://alpa.or.jp/jlda_event/20230122.html 】

多角化による畜産経営強化調査事業

この事業は、我が国で推進されている農業の6次産業化の取組事例の多くが農協系統を通じた調査となっており、農協系列とは異なる経営を行う商系畜産経営者の多角化に係る事例情報が少ないことから、これらの調査を行うとともに、意見交換等を通じて、今後の6次産業化を含めた多角化経営の発展方向や成功のためのノウハウ、失敗しないための留意事項などを「指針」として作成し、これから畜産物の加工、販売、輸出等を志向する畜産経営者に情報提供することを目的として、本年度からJRAの助成を受けて開始しました。

◎ アンケート調査を実施

配布数 500 に対して、372 の回答があり、回答率は 74.4% でした。今回から、アンケートの回答方式に WEB による回答を加え、57 の WEB 回答がありました。現在アンケートの内容を分析中です。

◎ ワークショップ千葉会場を開催

日時: 令和4年9月8日 13:00~16:00 場所: 千葉県千葉市

千葉県庁、(株)花園たまや、(株)須藤牧場、(株)サンライズファーム、東都生活協同組合からの5名の発表者を含め総勢35名の参加がありました。



第1部で、行政からは、千葉県の6次産業化の取り組み状況、生産者からは、卵の直接販売所では、いろいろな人に来てもらえるような取り組みを行ったこと。酪農への理解を得るために体験教育ファームなどに取り組み、家族の意向でジェラートを始めて、遠隔地からの客も多く評判になったが、コロナ禍や人手の問題で苦労したこと。自ら趣味で作り始めたハムソーセージの製造販売を始めたが、販売に

苦勞しこと。レストラン経営はコロナ禍で閉店大打撃を受け、販売先に苦勞しつつも新たに総菜を手掛けて、苦勞の連続であるものの、努力して継続していくことが重要と考えていること。生協担当者からは、消費者のニーズを十分に聞きくことで定番の商品になった商品の例などの紹介があり、第2部で質疑応答が行われた。

詳細は全日畜ホームページ内の速報をご覧ください。

【 URL : https://alpa.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/202212_chiba.pdf 】

◎ ワークショップ青森会場の開催

日時：令和4年11月29日 13:00～16:00 場所：青森県十和田市

NPOプラットフォームあおもり、(株)坂本養鶏、(有)金子ファーム、(株)ふなばやし農産の4名の方々から発表者があり、発表者を含め32名の参加がありました。



第1部で、青森県内の畜産経営のサポートを行ってきたなかで、得られた知見から、畜産経営が多角化を目指すに当たって、考えておかなければならない点、多角化を成功させるためのポイント等について、養鶏では、殻付き鶏卵を輸出するに当たっての苦勞、肉用牛酪農経営では、収益の追求ではなく、地元の理解を得るために取り組んだこと、また、飼料の取扱店から養鶏に進出し、大規模化することによる疾病被害の大きさから、養豚にも取り組み、リスクの分散を行ったことなどが報告されました。

詳細は全日畜ホームページ内の速報をご覧ください。

【 URL : https://alpa.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/202301_aomori.pdf 】

◎ ワークショップ山口会場の開催

日時：令和5年2月2日 13:00～16:00 場所：山口県山口市

農林水産省中国四国農政局、(有)船方総合農場、(有)萩見蘭牧場、(有)鹿野ファーム、(株)久保アグリファーム、(一社)広島県基金協会からの6名発表者を含め27名の参加がありました。



第1部では、中国四国地域の6次産業化推進の取り組み概要について説明があり、その後、生産者の発表者から、多角化に取り組んだ経緯、問題点などが発表されました。第2部ではそれに関する質疑応答が時間を超過して熱心に行われました。

(このワークショップの詳細は、近々速報として当協会ホームページに掲載します。)

(文中での団体の略称標記について)

- 全日畜：一般社団法人 全日本畜産経営者協会
- 全日基：一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 工業会：協同組合 日本飼料工業会
- 〇〇県基金協会：一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会